

これじゃ、「舛添知事」問題と同じ。許していいの？

日本共産党の「反対討論」を紹介します。

品川区

一人300万円 区幹部職員と区議のリオ五輪視察

この『議員派遣』は、4月6日、濱野区長よりブラジル・リオデジャネイロでのオリンピックに8月5日から11日までの7日間、「2020年東京大会で品川区が3競技の会場になるにあたり、運営状況等確認のため」に文化スポーツ振興部長、オリンピック・パラリンピック準備課長など区の幹部職員5人が行う視察に議員2名の同行を」との要請をうけたことによるものです。

区は、視察は大会の運営状況を確認のためといいますが、そもそも2020年の東京オリンピック・パラリンピックの運営責任者は大会組織委員会です。大会組織委員会からの要請がないにもかかわらず、なぜ品川区が行く必要があるのか示されていません。しかも、委員会の中心の東京都とも事前になんの連携もとっていません。

23区中9区が競技会場予定地。リオのオリンピック視察は品川区だけです。

リオ五輪視察 品川区だけ

①品川区は主催団体ではないのに...がなぜ、五輪視察が必要なのか

日本共産党品川区議団が、5月24日、声明「一人300万円のリオ五輪視察 必要性は不明確、費用も不明朗。品川区職員と議員の派遣に反対します」を発表。27日の本会議では鈴木ひろ子議員が反対討論にたちました。本会議を傍聴した約30人の区民は「オリンピック



イメージ図

ク視察というが、舛添都知事の問題と同じでは。税金の無駄遣いは絶対許せない」など怒りの声があがりました。「議員派遣の件」は、反対が共産、維新・無所属、ネットの12人が反対、自民、公明、民進、無所属などの賛成多数で可決してしまいました。

渋谷区議会がパラリンピック視察を行います。他の会場予定の7区はリオオリンピックもパラリンピックもどちらも視察予定はありません。なぜ品川区だけが行かなければならないのでしょうか。

視察の目的も必要性もまともに語らず先方と「会えるかどうか分からない」というのに...

本会議で決定された リオ・オリンピック派遣2人の議員 自民党 渡辺裕一氏 民進党 稲川貴之氏

視察内容についても、区は、競技の実施状況、パラリンピックの準備状況、ボランティアの状況、多言語対応を視察するとしていますが、漠然としたものであり、具体的な中身の説明を求めても示されませんでした。

しかもこれらは、組織委員会や東京都と連携することなく品川区独自に具体化できるものではありません。また区は、自治体関係者やスポーツ関係者、文化イベントの主催団体と会えれば話を聞きたいと述べていますが、「接触を調整しているが会えるかどうかはわからない」とその確証もないまま、視察だけを決めています。

ご意見・ご要望をお寄せください

日本共産党 品川区議会報告

発行：日本共産党品川区議団 2016年6月特別号 発行責任者：飯沼雅子 TEL5742-6818(直通) FAX3778-3088 ホームページ 共産党品川 検索

② 高額な視察費用 総額で2100万円 一人当たり300万円

第2に、住民の理解が得られない高額な視察費用の問題です。

年収200万円以下のワーキングプアは1100万人を超え、働く人の4人に1人です。一人300万円はその年収の1・5倍にも当たるものです。子供の6人に1人、ひとり親家庭の5割超が貧困です。子どもたちが空腹を満たすこともままならない深刻な実態に子ども食堂がつけられ、一食300円程度で提供されています。視察費総額の2100万円は7万食分に相当する額です。

しかも、これほどの高額な経費にもかかわらず、その内訳も示されていません。往復の航空券とホテル代、チケット代で一人200万円との説明ですが、航空券代がいくらのか、ホテル代は一泊いくらか、観戦のためのチケット代はどれくらいか、ホテル代、ホテル代それぞれ

- 年収200万円以下—働く人の4分の1
- 「子ども食堂」—7万食分に相当



ケ—それぞれ

○ 航空券 (往復)
○ ホテル代
○ チケット代
合計1人 200万円

いくらかは「把握していない」と答弁。さらに、現地の移動費、通訳で159万円、現地のツアーコーディネーター代350万円、事前調整、アテンド料200万円

との説明でした。いずれも高額な費用ですが、その明細は示されませんでした。あまりに不明朗な予算です。これでは区民の理解は得られません。

③ 議会にまともな説明なし

第3に、今回の議員派遣を決める進め方の問題です。

2回の議運の質疑では、議員派遣の要請を行った区の責任ある理事者は両日とも出席せず、議会事務局長からの説明のみ。資料は簡単な要請文と、7日間の大まかな行程表のみ。そこには、1日目専用車にて各種視察・調査、2日目「ビーチバレー」視察・調査、3日目「ホッケー」視察・調査、4日目

終日各種視察・調査とあるだけです。

共産党が、目的、具体的な視察内容、予算の内訳を示した資料の提出と担当する区の理事者の出席を求めましたが、委員長は取り合わず、資料の提出もありませんでした。

26日、議案として初めて本会議に提出されました。これまで、一度も理事者は出席せず、議会事務局長が「理事者から聞いてきた話」として理事者に代わって説明、委員の質問にもまとも

な答弁ができませんでした。日本共産党は、議案として正式に議会に提出された今だからこそ、理事者出席のもと審議を行い、これまで明らかにならなかつた視察の必要性、費用の明細について明らかにされるべきと求めましたが、それを行わず『議場即決』

税金の無駄遣い リオ五輪視察は中止を

いま国政でも都政でも税金の使い方が大問題になっています。不明朗な税金の使い方をただしていくことが議会には求められています。

リオ・オリンピックに区が視察団を

送ることはやめるべきです。ましてや区議会は根拠がありません。

税金の無駄遣いと言わざるを得ません。日本共産党区議団はこの議案に対して反対し、計画の中止を求めました。

平和と人類の調和の発達へ オリンピック精神を活かした東京のまちづくりへの転換こそ

いま東京都と品川区は、オリンピックを口実に巨額の税金を投入する巨大道路づくりや超高層ビル開発などに熱中しています。オリンピックをテコに環境破壊と住民追い出しの「東京大改造計画」の推進。これはオリンピック憲章の精神と相いれませんが、オリンピックの目的は、スポーツを人類の調和のとれた発達に役立てることであり、人間の尊厳保持に重きを置く、平和な社会の推進です。日本

日本共産党

共産党区議団は、オリンピック憲章の精神に基づき、誰もがスポーツを楽しめる施設や環境、地震に強いまちづくりやバリアフリーなどを思い切つてすすめることこそすべきと考えます。そうしてこそ、困難を抱える被災地も含めたみんなが歓迎できる東京オリンピック・パラリンピックになると確信します。

「議場即決」…提出された議案を委員会に付託せず、本会議で議決すること。